

3

重点安全施策の内容と進捗状況

2008年安全報告書 阪急電鉄株式会社

3-1

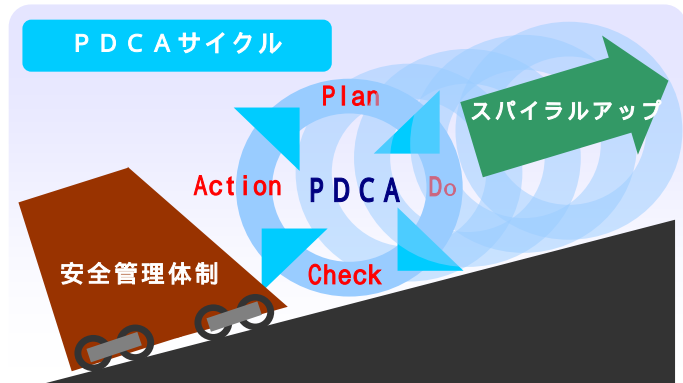
安全意識の高揚・安全対策

1 「安全意識」を醸成するための取り組み

① PDCAサイクル

安全最優先の意識を徹底させるため、計画(Plan) 行動(Do) 確認(Check) 改善(Action) 新しい計画(Plan)の実行を全社的に拡大し、スパイラルアップを図っています。

毎年度、年度計画(Plan) 実施(Do) 内部監査(Check) 年度計画実施結果見直し(Action) 次年度計画の策定(Plan)のPDCAサイクルで各種安全施策を進めています。



② 輸送の安全に係る行動規範カード

阪急電鉄の従業員だけでなく、グループの各会社の輸送の安全にかかわる関係者一人ひとりに配布して携帯させるとともに、始業前に行動規範を再確認する等、日頃から意識の高揚に活用して、輸送の安全の確保に努めています。



③ 安全講習会

輸送の安全に関するテーマをもとに、社外から講師を招いて講演やセミナー等を実施し、安全意識の高揚を図っています。

日時 2007年7月25日(運転部門向け)
2007年11月1日(技術系の各部門向け)

場所 本社エコルテホール

講師 JR東日本パーソナルサービス
顧問 関口雅夫 様

テーマ 「事故に潜むヒューマンエラーの実態 ~ヒューマンエラーに対策はあるのか~」

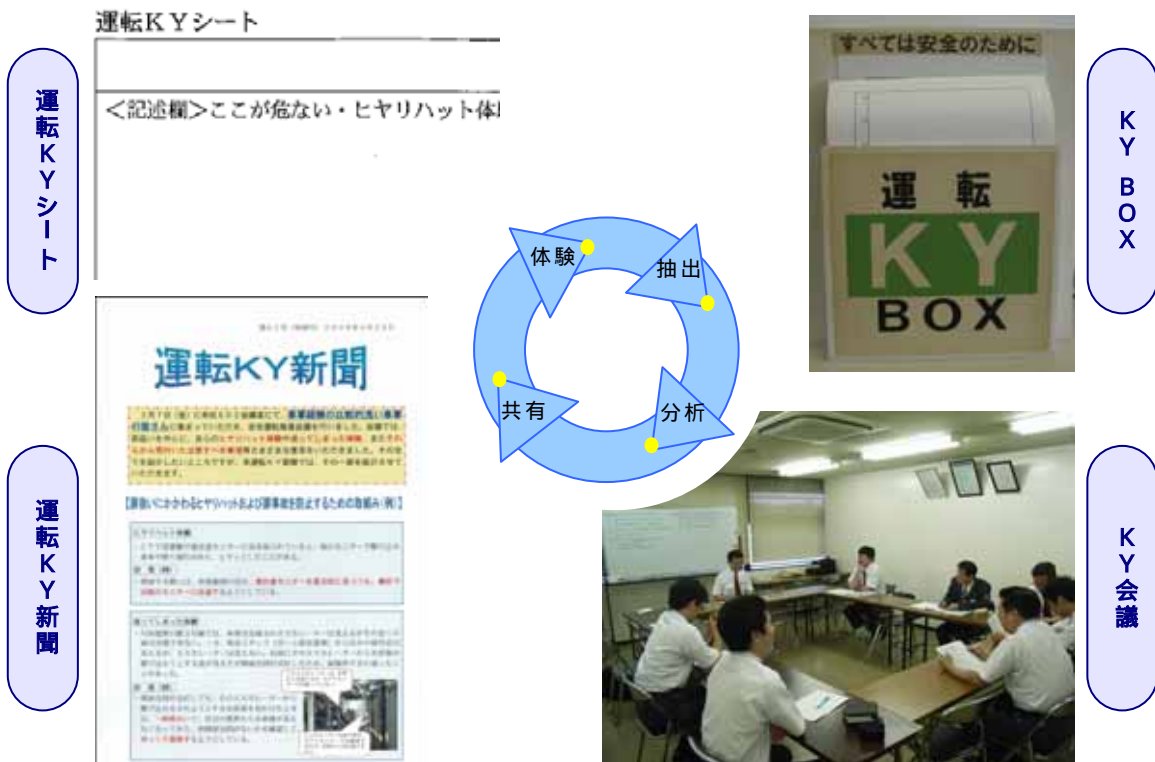
聴講者 約400名(両日合計)



2 「事故の芽」の報告の徹底と分析及びその対策

当社に關係する他社の鉄道事故やインシデントは、類似事故を防止するために対策を実施しています。また、事故やインシデントに至らない軽微な事象を「事故の芽・ヒヤリハット」と捉えて抽出し、分析や対策等を検討する危険予知活動（KY活動）を続けています。

運転部門で実施している「運転KY」活動では、各係員が経験した事故の芽やヒヤリハットに關係する事象等を「KYシート」に記入して、各事務所等に設置した「KY BOX」に投入することで抽出します。毎月集約して、KY会議で分析や対策を検討し、テーマ（例・扉の開閉等の操作・ブレーキ操作・指差確認喚呼等）別に事象と対策等を「KY新聞」にまとめて各現場に掲示し、事故の防止に取り組んでいます。



3 情報伝達・共有化の取り組み

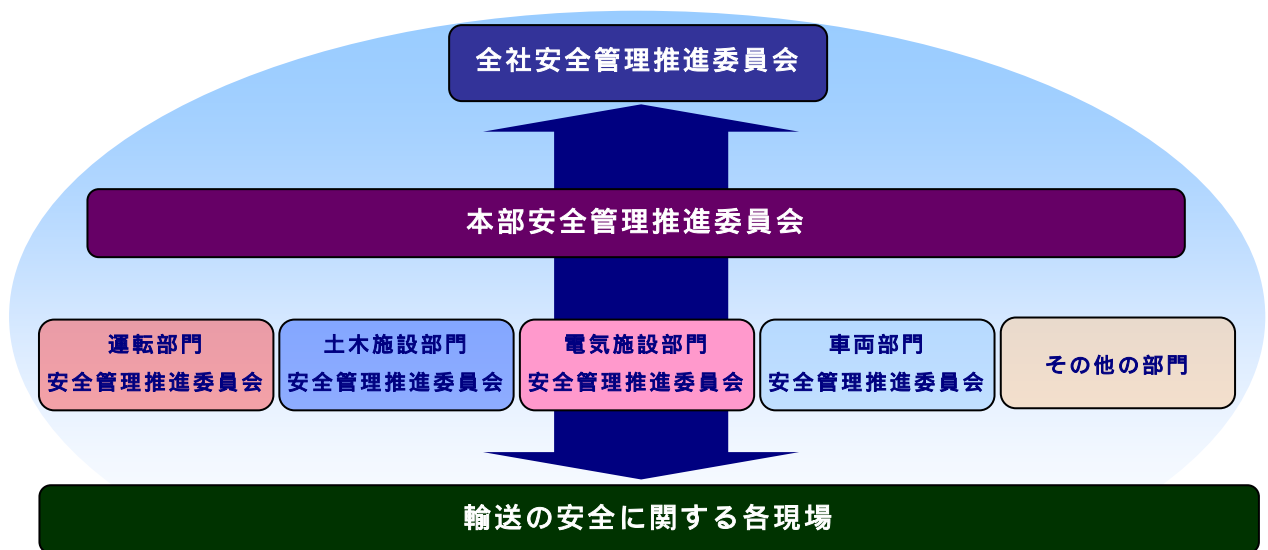
1 社長及び都市交通事業本部長の巡視と意見交換会等

社長や都市交通事業本部長等が積極的に現場へ赴き、現場の実状把握の他、係員との会話を充実する等、組織内のコミュニケーションを活性化して風通しのよい社内風土作りに努めています。2008年度からは、巡視以外にも現場係員と意見交換するフリーディスカッションミーティングを実施しています。



② 安全管理推進委員会における情報伝達協力体制

輸送の安全に関する様々な情報は、下図のような仕組みで共有化しています。



④ 事故再発防止に向けた取り組み

① 事故防止対策検討会

事故が発生した場合、事故防止対策検討会を開催し、原因分析や再発防止策を検討します。また、他社の事故も必要に応じて当社に置き換え、対策や現状報告を行って類似事故の防止に努めています。

2007年度は、本部事故防止対策検討会で検討が必要な事故はありませんでしたが、各部門が単独で関係する事故は、該当部門で事故防止対策検討会を開催して、再発防止を図っています。

その他、検討会で扱った事故は、事故事例教育や事故対策の経過確認等に活用するため、2007年度末にデータベース化を図りました。

② 運転保安向上検討会

2008年度からATS装置やホーム保安、踏切保安等に関する様々な課題について、各部門が横断的に研究開発する検討会を設けました。事故防止対策検討会は事後対策、本検討会は事前対策に取り組んでいます。

③ 他社事故事例の周知と事故防止啓発

鉄道事故に関する保安情報や事故情報は、各現場の係員一人ひとりまで周知して、類似事故を防止するよう啓発を行っています。また、各鉄道事業者と連携を図ってタイムリーな事故情報を収集して各部門に提供する等、事故防止に役立てる啓発活動を行っています。

5 教育・訓練

1 安全管理体制に関わる教育

輸送の安全に係る年度計画を策定し、社長をはじめ輸送の安全に関係する全社員に計画内容の周知徹底を図り、一致協力して実施するよう取り組んでいます。また、各部門においても運輸安全マネジメント等に関する各種教育を実施しています。

2 コーチング・ファシリテーション

現場監督者のコミュニケーション力や指導力を向上するため、コーチングセミナーやファシリテーション教育等を実施しています。また、それぞれの教育の効果を高めるため、一定期間後にフォロー教育を実施しています。その他、団塊の世代が大量定年を迎えているため、本部内グループ会社を含めて、経験浅薄者や次代の職場の核となる人材の育成と技術の伝承を進めています。



3 外部教育セミナー

安全管理体制や内部監査員の教育の他にも様々な教育やセミナーを受講し、それぞれ社内教育へと展開して能力向上に努めています。

- ・安全マネジメント態勢構築及び運営研修
- ・内部監査担当者等向け研修
- ・鉄道技術推進センター講演会
- ・研修効果測定と評価のためのアンケート設計と分析評価活用
- ・安全の人間科学



4 教習所・人材育成センター

・運輸部教習所

京都線の正雀駅に隣接して、動力車操縦者（運転士）や車掌、助役等を養成する教習所（国土交通省認定）を設けています。施設内には、運転シミュレーターをはじめ車両や信号、駅務に関する教材の他、C A I（コンピューター支援による教育システム）を設備しています。

また、A E Dや心肺蘇生の教育他、高齢者の身体的機能の衰えや心理的变化を実感する器具を使用した体験を通じて、心のこもったお客様対応ができるよう人材育成に努めています。

・人材育成センター

教習所に隣接して人材育成センターを設け、駅業務やサービス教育を専門的に行い、質の高い駅係員を育成しています。



5 本部合同訓練

各部署で実施する様々な訓練の他、各部署が連携した対応が求められる大規模災害や事故を想定して、下記のとおり、都市交通事業本部合同訓練を実施いたしました。

・日時・場所

2007年11月16日13時～ 京都線 正雀車庫

・目的

東南海・南海地震に対する初期対応策の策定と情報伝達訓練及び列車脱線復旧訓練

・想定

- ・東南海地震と南海地震が同時発生
- ・運転指令所にて緊急地震速報を受信
- ・運転指令より全列車に対して緊急停止指示を発報
- ・緊急地震速報信号受信の23秒後、京阪神で震度6弱～5弱の地震が発生
- ・社内地震計(六甲・中津・西院)で震度5を計測
- ・京都線で普通列車が脱線、車両・施設・電気設備を損傷
- ・淡路駅構内停電
- ・神戸線、宝塚線でも各1列車が駅構内で脱線
- ・地震発生約1時間30分後に大阪湾沿岸に津波到達、水位上昇、内氾濫のおそれ

緊急地震速報システム



対策本部



架線復旧訓練



軌道復旧訓練



列車脱線復旧訓練



3-2 安全性向上対策

1 立体交差工事の推進

「淡路駅付近連続立体交差工事」は、高架橋等構造物の詳細設計や用地の取得を進めています。また、「洛西口駅付近連続立体交差工事」や「今津南線の高架化工事」は、高架橋等の構造物の詳細設計を進めています。これらの立体交差化により、踏切道の削減と沿線交通の円滑化を促進します。

